

高等学校 令和8年度（2年次用） 教科 芸術 科目 音楽 I

教科： 芸術 科目： 音楽 I 単位数： 2 単位
 対象年次組： 第 2 年次 1 組～ 3 組
 教科担当者： (1～3 組： 山岸)
 使用教科書： (教育芸術社 MOUSA 1)
 教科 芸術 の目標：

- 【知識及び技能】 音楽と文化的・歴史的背景の関わりについて学び、その多様性について理解を深める。音楽表現のために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表現している。
- 【思考力、判断力、表現力等】 音楽を形づくる要素や、要素同士の関連を知覚し、それらを音楽表現にする際に意図をもったり、聴いたときに適切に言語化するなどしている。
- 【学びに向かう力、人間性等】 音楽や音楽文化と豊かに関わり、主体的に表現し、協働的な態度で学習に取り組もうとしている。

科目 音楽 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
音楽の持つ構造や、曲想と文化的、歴史的背景の関連性を学習し、音楽の多様性を理解する。歌唱、器楽、創作において表現するための技能を身につける。	自己の創意工夫によって豊かな音楽表現をできるようにする。また、音楽の多様な表現と特徴を理解し、美しさや面白さを味わって聴くことができるようになる。	音楽の幅広い活動を通して、主体的に表現に取り組む態度を養う。また、他者の表現を尊重し、受け入れ、互いに認められるようになる。音楽によって、生活や社会を豊かにしていく心を持つ。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		歌	器	創						
A 単元 歌唱表現 校歌習得。教科書掲載曲を歌う 【知識及び技能】 歌詞の意味を理解し、日本語を伝えられるような発音、発声の技術について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 曲想や音楽の特徴を理解し、表現するのにふさわしい声を考えている。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の声と身体に注意を向け、しっかりした発声を身につける。	・校歌、および歌集、教科書掲載曲を歌う。 ・発声練習を行い、身体の使い方や母音の口の開け方、子音の発音の注意点を学ぶ。 ・声変わりや自分の今の声域について知る。	○			○	・曲想と音楽の構造、歌詞の意味内容を理解して歌っている。(知) ・曲にふさわしい発声を理解し、工夫して歌っている。(思) ・咽喉、胸郭、腹部など、身体の使い方を意識し、発声を行っている。(態)	○	○	○	8
B 単元 楽典 (拍子とリズム) 【知識及び技能】 楽譜の基礎知識を学ぶ。拍子、リズムについて読譜の基礎事項を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 様々な音楽を聴取し、身体を使ったリズム活動などを関連させて基本的なリズムの記譜法を学習する。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な音楽の基本拍を聴き分けることで、多くのスタイルの音楽を知り、それらを楽しみながら音楽活動を行う。	・4分の4拍子の捉え方 ・音符の種類と基本拍	○	○	○	○	・五線譜の基礎的なシステムを理解している。(知) ・様々な曲を聴きながらリズム活動をする中で、音符の長さなどを捉え、楽譜と結びつけることができる。(思) ・様々な曲を楽しみながら、学習と音楽活動を結び合わせて関心を持つことが出来る (態)	○	○	○	8
1 学 期 C 単元 キーボード (器楽) 【知識及び技能】 五線譜の意味を理解し、キーボードの構造を学習する。 【思考力、判断力、表現力等】 指使いなどの奏法を楽譜に関連させて考え、練習することができるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 既知の曲を使い、学習したことで目論見形成をさせ、練習を工夫できるようになる。	・キーボードの構造 ・指使い ・五線と音高 ・リズムの記譜				○	・リズムと合わせて五線譜の音高を理解している。(知) ・指使いを考えながら、キーボードでメロディを弾けるようになる。(思) ・キーボード奏法や楽譜の学習したことを合わせて練習を自主的に楽しんで行うことができる。(態)	○	○	○	10
D 単元 ポピュラー音楽 【知識及び技能】 ロックやヒップホップなど、現在の世界のポップスについて、歴史や音楽の特徴などを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ポピュラー音楽とはどのような成り立ちで出来たものなのかを知り、現代の多様な音楽の在り方を考えながら鑑賞している。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の個人的な音楽経験と照らし合わせ、その音楽の歴史や成立を知ること、新たな視座を持ち考えることができる。	・ロックの起源や特徴について ・ブルースやジャズの歴史や成立について ・ほかの多様なポピュラー音楽の特徴、成立、社会的影響力など学ぶ	○	○		○	・様々な音楽の歴史的成立や特徴などを、自らの関心からインターネットや教科書を用い、調べることができる。(知) (態) ・音楽的特徴がどのようなものなのか、リズム活動や歌唱活動を通じて、考えを深めることができる。(表) ・様々な着眼点を得て、曲や演奏に対する評価を根拠を示しながら行うことができる (思)	○	○	○	6

